

壁飾りを作りながら天の父母様を実感する喜び

ふと手にとった折り紙をちぎりながら私は天の父母様が創られたこの世界の美しさに想いを巡らせる。

私にとって壁飾りを作る時間は何ものにも代え難い喜びのひとつである。

一枚の模造紙に作った折り紙の材料を淡々と貼っていく。

まさに、創造の世界に突入する。

日々の忙しさの中で忘れがちな大切な事をそっと思い出させてくれる時間でもある。

折り紙を切ったものを、ノリで1つ1つ貼り重ねていく作業は単純でありながらも、不思議と心を満たしてくれる。

集中するほどに心の奥から新しい力が湧き上がってくる。

私ひとりのものではない。

天の父母様から与えられているようなエネルギーを感じる。この世にある花や木、全てのものは天の父母様によって創られたものだと感じる時、私は深い感動に包まれる。私はその美しさを、ほんの少しでも形にしたいと思いながら壁飾りを作っている。

壁飾りの中には、つばめや蝶々、てんとう虫などを作る事もある。てんとう虫を作る時は沢山の画像を見ながら形や色を確かめていくのだが、その1つ1つを見ているだけで、天の父母様の創られた命の不思議さや、偉大さを感じる。てんとう虫だけではなく、蝶々やトンボなど、どの生き物を見ても同じように天の父母様の偉大さを感じる。また、天の父母様の視点に少し触れたような気持ちになり、「ここにはこの虫、この葉っぱにはてんとう虫を乗せてみよう。」と自然に思い浮かんでくるような感覚である。壁飾りを作っていると、不思議と「ここはもう少し赤を入れてみようか」「この部分は黄色を足した方が暖くなるかもしれない」と自然にアイデアが浮かんでくる事がある。そんな時、3年前に聖和した母がそっとそばで見守りながら優しく教えてくれているような気がする。またときおり、思いがけない色や形が心に浮かぶ事がある。その度に3年前母の聖和の数日前に聖和した長男のことを思う。絵が好きだったあの子のやさしい感性が今も私のそばでそっと寄り添ってくれているように感じる。あの子が10歳くらいの時、水族館に家族で行ったあと、夏休みの絵日記を見つけたことがあり、その中にクエという魚の絵と日記があったが、一度見ただけで、家に帰ってからすぐに書いたようだけど、よくもこんなに上手に書いたもんだと親バカながらも感心したことがある。絵が好きというのか、記憶力が優っているのか、絵を愛していたあの子の優しい想いが蘇ってくる。あの世に行ってしまった寂しさよりも、壁飾りを作る時は母も長男も一緒にいるような気がして私の心を励ましてくれて、霊界の協力を強く感じる。なので本当に楽しく喜びながら作る事ができる。完成した作品を見ると、何とか出来た。何とか表現できた。という喜びが込み上げてくる。それは自分の手を通して、天の父母様の創られたものの美しさに気づくことが出来た喜びなのだと思う。そして、この壁飾りを見る人にも、優しく寄り添うものになってほしいと願っている。患者様の家族の方が、ふと目にした時に、少しでも穏やかな気持ちになり、心が安らぐひとときを感じて頂けたら、と思う。日々の生活の中で、不安や疲れを感じる事があっても、色とりどりの花や、やわらかな形がほんの少しでも心を和らげる存在になれたなら、それが私にとって何よりの喜びである。実際に患者様の家族の方が、壁飾りを見て「今月もとてもいいわね。」「この桜の木の枝が、なんだかこう風が吹いているように見えるわね」「花びらが風に舞って綺麗ね」「これもかわいいわね」と、やさしく言葉をかけて下さる事がある。そのような言葉が私の心をあたたかく満たしてくれる。喜んで頂けたり、誉めて頂けたりすると、次回ももっと良いものを作りたいという気持ちになる。そしてその思いに導かれるように、これまで気づかなかった発想や工夫が次々と心の中に広がっていくのを感じる。それはまるで自分の中にある小さな才能が芽を出しているかのようである。気が付けば、この壁飾り作りも2年目となり5月で24回目を迎えた。季節ごとに移り変わる自然や、花々、そしてこの世にあ

る全ての万物はどれも尽きる事のない、美しさを持っている。その豊かさに触れながら、私は何度でも新しい表現を見つけていく事ができる。だからこそこの作品作りは終わる事のない自然や花や万物の美しさがある限り、私はこれからも絶え間なく、そして永遠に作り続けていきたいと思う。看護部長から「これからも小布施さんがずーと作ってね」と声をかけて頂き、私はこの壁飾りを作り続けていける事の有り難さをしみじみ感じた。人はいつまで生きられるのかわからない中で私も来年1月で還暦を迎える。今こうして生きている時間の中で壁飾りを作ることができる、その機会を与えていただいている事は、私にとって何よりも大きな恵であり、心から感謝している。こうして与えられている全ての導きは、天の父母様のはからいによるものだと感じている。そして私はその中で喜びに満ちた日々を与えられているのだと思う。私の中に生まれたこの喜びが、誰かの心にそっと届き、その優しさが広がって世界の平和へと繋がっていく事を願っている。天の父母様が、そんな私を見て喜び、より一層私の中の作る意欲を大きくさせて、生きる力と元気をもらっているようである。天の父母様が私を見て喜んで下さり、私もまた喜びの中で作り、その喜びが、壁飾りを通して多くの人が力をもらい、喜んでくださり、人から人へと広がり、やがて大きな優しさとなり、世界の平和へと繋がっていく事を心から願ってやまない。